① 一人一人の学力を伸ばす教育の推進

現状と課題

○　全ての児童生徒が基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度等の確かな学力を身に付けるためには、児童生徒一人一人の成長や教育的ニーズを把握した上で、個々の興味・関心・意欲等を踏まえたきめ細やかな指導・支援を行うことが重要です。

　本市では、小学校２年生から中学校２年生までを対象として「上尾市立小・中学校学力調査」を実施し、当該年度の児童生徒一人一人の学習内容の定着度を把握するとともに、指導方法の改善に活用しています。また、市や県及び国の学力調査結果等の学習データを活用して、少人数指導やティーム・ティーチングなどの一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかで適切な指導・支援の実現に取り組んでいます。

○　学校の教育力向上のためには、各学校が児童生徒の実情を踏まえた上で、常に指導方法の工夫改善を図り、研究・実践を重ねることが重要です。

　本市では、各小・中学校が教育課題を定め、その課題を解決するための学校課題研究の取組を支援することを通して、上尾市の教員の資質及び指導力の向上を図るとともに、学校教育の質の向上によって児童生徒の資質・能力の成長が図られるなど、魅力ある学校づくりに取り組んでいます。

○　全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICT は必要不可欠なものです。

　本市では、児童生徒のコミュニケーション能力や問題発見・解決能力、情報活用能力など、新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育課程を着実に実施するために、デジタル学習基盤の整備やこれまでの実践と ICT とのベストミックスを図っていくなど、効果的な ICT の活用を通して、授業改善に取り組んでいます。また、学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力を育成するために、全ての教員が ICT を効果的に活用した実践的な取組が行えるよう、教員の指導力を向上させることが必要です。

主な取組

▶児童生徒一人一人の学習意欲・学力向上の取組の推進

①　学習指導要領に基づき、各教科等で育成すべき資質・能力を明確にして、児童生徒一人一人に生きて働く「知識及び技能」を身に付けさせます。また、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成します。

②　市や県及び国の学力調査結果などにより、各学校が自校の児童生徒の学力や学習の状況を把握し、学校の課題改善に向けた「学力向上プラン」を作成します。また、そのプランに基づいて、指導方法の工夫・改善を図り、児童生徒に確かな学力を身に付けさせます。

③　学力の経年変化を的確に把握するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、授業の質を高めます。

④　少人数指導や習熟度別指導、補充的指導など、個に応じたきめ細やかな学習指導を展開します。

⑤　通常学級に在籍し、支援を要する児童生徒への生活支援及び自立活動を行い、学校・学級の円滑な運営、安全確保を図るため、学級支援員「アッピー・スマイル・サポーター」（ASS）を配置します。

▶魅力ある学校づくりの推進

①　小・中学校に計画的に研究委嘱等することを通して、各校が創意工夫を生かした教育活動を展開し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図れるよう指導・支援し、魅力ある学校づくりを推進します。

②　研究発表を通し、研究成果などを全ての学校で共有化することにより、市全体の教育水準の向上を図ります。

▶ICT 端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進

①　「知能及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱をバランスよく育成するため、児童生徒や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとして、これまでの実践と ICT 機器（ICT 端末、大型モニター、デジタル教科書、無線 LAN 環境等）とのベストミックスを図っていくことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ります。

②　各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程を編成することで、学習の基盤となる資質・能力の一つである情報活用能力（情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な力。情報モラルを含む。）を育成します。

③　学校における教育の情報化、授業などにおける ICT 機器の活用、情報モラル教育などの推進に当たっては、上尾市学校 ICT 推進運営委員会、上尾市学校 ICT 推進プロジェクト部会を中心に組織的に取り組みます。

④　ICT 機器を活用した優れた授業の実践事例をデータベース化し、それを活用することで教職員の個々の指導力の向上、平準化を図ります。

⑤　導入した ICT 端末の積極的活用を推進するため、「ICT 活用研修会」を実施し、教職員の ICT 機器の活用能力及び指導力の向上を図ります。

② 小中一貫教育の推進

現状と課題

○　市が目指す教育を実現するためには、児童生徒一人一人が生涯にわたって学び続けるとともに、その資質・能力を一貫性・連続性のある教育によって育んでいく必要があります。
　中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、学校生活に適応できない、いわゆる「中１ギャップ」などへの対応が課題となっています。

○　本市では、令和５年３月に策定した「上尾市小中一貫教育基本方針」に基づき、国の動向やこれまで実施してきた上尾市の小・中連携の成果と課題を踏まえ、小学校と中学校の９年間の系統性・連続性のある教育を推進しています。

主な取組

▶小学校・中学校９年間の学びと育ちの連続性を重視した教育課程の編成

①　中学校生活に適応できない、いわゆる「中１ギャップ」と呼ばれる進学に伴う新たな環境への不適応などの課題等への対応のため、令和５年３月に策定した「上尾市小中一貫教育基本方針」に基づく、小学校・中学校９年間にわたる児童生徒の学びと育ちの連続性を重視した教育を展開するため、小学校・中学校の９か年を見据えた教育課程を編成するなど、小中一貫教育の推進に取り組みます。

▶各学校種を繋ぐ協力と連携の推進

①　小学校から中学校への円滑な接続の為に、中学区における異校種間の連絡会や研修会などを定期的に実施し、情報交換を通して共通理解を図ります。

②　進路指導やキャリア教育、インクルーシブ教育の充実のため、高等学校や特別支援学校との交流・連携を推進します。

③ 幼児教育の推進

現状と課題

○　幼稚園、保育所、認定こども園における主体的な遊びを中心とした総合的な指導から、小学校の指導まで一貫した流れが円滑に接続されるよう、幼・保・小の更なる連携・交流が必要です。

○　小学校生活に適応できない「小１プロブレム」に対応し、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、幼稚園、保育所、認定こども園と小学校との十分な連携が課題となっています。
　本市では、小学校への学びが円滑に接続されるよう、幼・保・小の更なる連携・交流を推進していきます。

主な取組

▶幼児教育推進協議会の充実

①　幼児教育に携わる関係各所が連携し、情報交換や調査等を通して、幼・保・小連携が効果的に行われるよう支援します。

②　幼児教育推進協議会において、幼・保・小それぞれの施設を訪問し、実際に保育や教育の現場を視察することによって、成果や課題、特色等を見つけ、研修の場などで共有することにより幼児教育の充実や連携を進めます。

▶幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続

①　市内の小学校、幼稚園、保育所、認定こども園の職員で幼・保・小連携合同研修会を実施し、互いの取組について学ぶ機会を設け、幼・保・小連携の推進に取り組みます。

②　幼稚園、保育所、認定こども園に、特色のある幼児教育について研究委嘱をし、その成果や課題を合同研修会で発表し、共有する場を設けることにより、幼児教育の推進を支援します。

③　幼稚園、保育所、認定こども園が地域の小学校と幼児と児童との交流をしたり、職員同士が見学会や意見交換の場を持つことにより、幼・保・小連携を推進します。

④　幼・保・小の学びの連続性について理解を深め、小学校が作成する「アッピースタートカリキュラム for 2 weeks」を活用し、「架け橋期」の教育を推進します。

目標１　確かな学力の育成　に対する指標

※現状値は令和６(2024)年時点、目標値は令和１２(2030)年時点です。

指標	上尾市立小・中学校学力調査における標準得点		
指標の定義	「上尾市立小・中学校学力調査」における、国語及び算数・数学の標準得点（全校区の平均正答率を５０とした時の標準得点）の平均値。		
選定理由	全国と比較して、上尾市の児童生徒が確かな学力を身に付けているかを示す数値であるため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
小学校（総合）	**49.7**	**51.0**	「上尾市立小・中学校学力調査」において、実施する全ての学年で調査する教科（国語及び算数・数学）において、標準得点の平均値（５０点）を１ポイント以上（５０＋１＝５１点）上回ることで、全国を大きく上回ることを目指し、目標値を設定。
中学校（総合）	**50.7**	**51.0**	

指標	ICT 端末活用状況		
指標の定義	上尾市の「ICT 端末活用状況調査」において、一週間の授業の中で ICT 端末を毎日１時間以上活用している教員の割合。		
選定理由	個別最適な学びと協働的な学びの実現には、教材・教具や学習ツールの一つとして、ICT を日常的に活用することが重要であるため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
小学校	**90.1%**	**100%**	児童生徒の ICT 端末が整備された中で、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、全ての教員が日常的に ICT を活用して指導できることを目指し、目標値を設定。
中学校	**79.6%**	**100%**	

（写真1）平方東小学校　学習指導【外国語科・外国語活動・英語活動】

（写真2）大石小学校　学習指導【算数】